

オープン市場短信 (2019年5月)

2019.5.14

◆ 4月のCP市場動向

4月末のCP市場残高は20兆196億円となり、前月比+4兆4,901億円と過去最大の増加額であった。一般事業法人の発行再開に加え、その他金融の新規発行が市場残高の増加に大きく寄与している。業態別残高では、一般事業法人が7兆2,505億円(前月比+3兆6,415億円)、その他金融が9兆9,503億円(同+1兆1,177億円)と増加した。一方、金融機関は1兆5,307億円(同△650億円)、ABC Pは1兆2,881億円(同△2,040億円)と減少した。発行レートは、投資家やディーラーの根強い購入ニーズから、マイナス~0%近辺の出会いであった。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄(a-1+格) 0.000%割れ 一般事業法人(a-1格) 0.000%割れ~0.0001% その他金融銘柄(a-1格) 0.000%割れ~0.05%

【業態別残高内訳】

(単位: 億円)

| 業 態 | 4月末残高 | 3月末残高 | 増 減 |
|--------|---------|---------|--------|
| 一般事業法人 | 72,505 | 36,090 | 36,415 |
| その他金融 | 99,503 | 88,326 | 11,177 |
| 金融機関 | 15,307 | 15,957 | -650 |
| 政府系金融 | 0 | 0 | 0 |
| 銀行等 | 3,040 | 2,790 | 250 |
| 証券 | 12,267 | 13,167 | -900 |
| ABC P | 12,881 | 14,921 | -2,040 |
| 計 | 200,196 | 155,294 | 44,902 |

(注: 買入消却分含む)

【格付け別の発行レート】

4月のCPLレートレンジ

| 格 付 | 1カ月 | 2カ月 | 3カ月 |
|---------------|------------------|------------------|------------------|
| a-1+ (一般事業法人) | △ ~ △ | △ ~ 0.0000% | △ ~ — |
| a-1 (一般事業法人) | △ ~ 0.0045% | △ ~ 0.0000% | △ ~ 0.0001% |
| a-1+ (リース銘柄) | — ~ — | — ~ — | △ ~ △ |
| a-1 (リース銘柄) | △ ~ 0.0000% | △ ~ 0.0020% | △ ~ 0.0500% |
| a-2 | 0.0010% ~ ケ0.15% | 0.0020% ~ ケ0.15% | 0.0012% ~ ケ0.15% |

«CPオペ»

CP等買入オペは、オファー額が月間で合計4,500億円と、前月比△6,000億円減少した。按分落札レートは、オファー額の減少を受け、△0.002%～△0.003%のレンジとなり、前月（△0.006%～△0.011%）より上昇した。

〈月末オペ残高：2兆1,975億円〉

【日銀CP等買入れオペ実績】

(単位：億円)

| 実施日 | 実行日 | オファー金額 | 応札額 | 落札額 | 按分・全取 | 平均落札 | 按分比率 |
|-------|-------|--------|-------|-------|---------|---------|-------|
| 4月2日 | 4月5日 | 1,500 | 3,933 | 1,495 | -0.002% | -0.001% | 35.6% |
| 4月9日 | 4月12日 | 1,500 | 2,760 | 1,480 | -0.003% | 0.001% | 61.5% |
| 4月23日 | 4月26日 | 1,500 | 4,115 | 1,485 | -0.002% | -0.001% | 77.9% |

«ABCP»

ABCPは、期末要因が剥落し1兆2,881億円と前月比△2,040億円の減少となった。前年同月比では、若干増加した。

«短期社債登録状況»

証券保管振替機構によると、4月末時点における発行登録企業数は、IHIファイナンスサポートが新規登録を行い、1社増の524社となった。

«CP現先市場»

現先(S/N)レートは運用ニーズ強く、マイナス～0%近辺での出会いで0%では引き続き買い残り状態となっていた。

◆ 5月のCP市場動向

5月のCP発行市場は、引き続き事業法人の旺盛な資金調達ニーズから、今月の償還額（約2兆6,400億円）を上回る発行が見込まれる。GW明け後の発行はやや閑散な状況だが、下旬にかけて法人税払いや賞与手当等の資金需要から活況となると思われる。月末発行残高は、前年同月比で27か月連続の増加となり、21兆円前後を予想する。また、その他金融は良好な発行環境から、大手リース会社はもとよりカード会社や中堅リース会社等の調達が増加し、発行残高が10兆円台

目前となっており、今月もその動きが注目される。

«CPオペ»

4月26日に、5月のCP等買入オペについて、3月の公表分から日程とオファ―額の変更があった。9・16・28日（オファ―額は何れも1,500億円）の3回が予定されていたが、16・28日（オファ―額はそれぞれ2,500億円、2,000億円）の2回となった。各オファ―の合計金額は、4月実施分と変わらず。オファ―合計額が先月同様最小規模であることから、按分レートは横ばい推移を予想する。

«CP現先市場»

CP現先レートは、投資家の運用ニーズが強く、引き続きマイナスから0%近辺での出会いであろう。

参考資料 （出所：証券保管振替機構）

【4月末発行残高 上位10社】

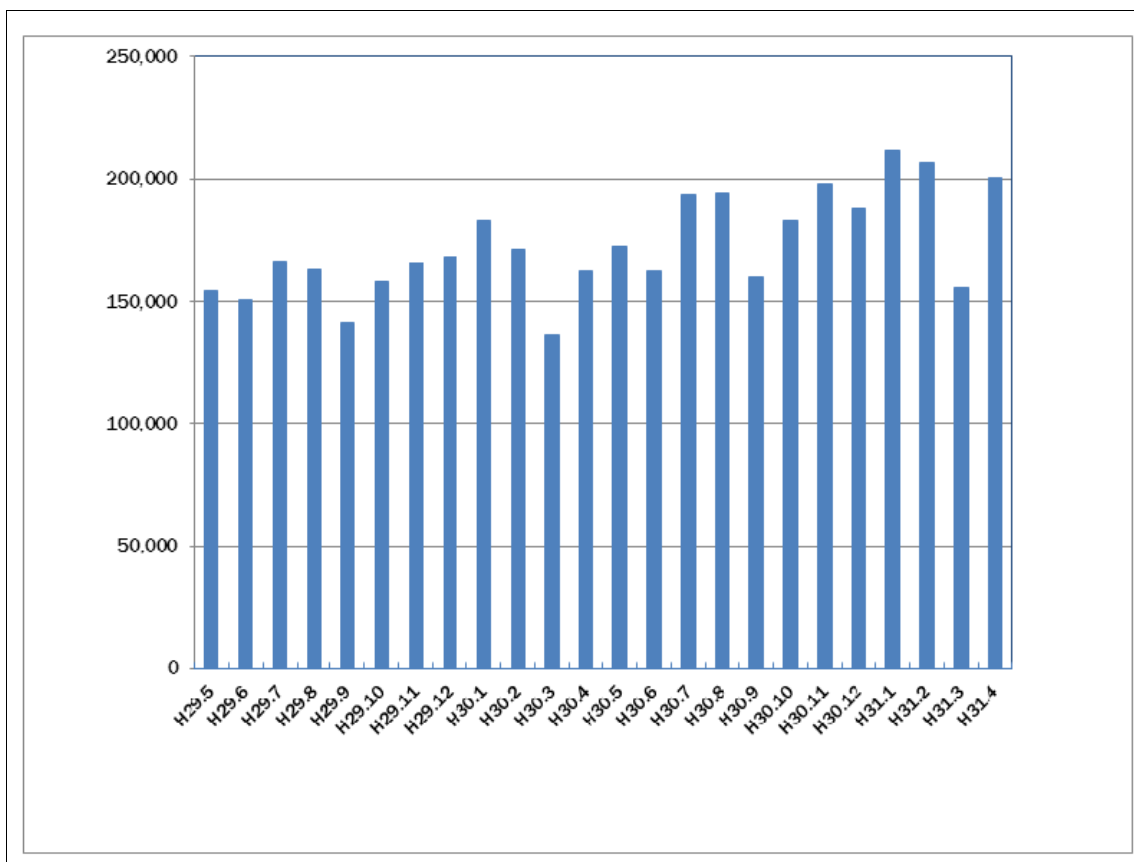
（単位：億円）

| | 発行企業名 | 4月末残高 | 3月末残高 |
|----|-------------------------|--------|--------|
| 1 | 三井住友ファイナンス&リース | 10,259 | 10,409 |
| 2 | 三菱商事 | 9,800 | 1,300 |
| 3 | 三菱UFJリース | 7,552 | 7,332 |
| 4 | NTTファイナンス | 6,910 | 2,630 |
| 5 | 東京センチュリー | 6,509 | 6,397 |
| 6 | クレディセゾン | 5,880 | 5,110 |
| 7 | 興銀リース | 5,500 | 5,500 |
| 8 | 三菱UFJニコス | 5,280 | 3,780 |
| 9 | コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション | 5,097 | 5,639 |
| 10 | パナソニック | 4,770 | 1,040 |

【短期社債市場残高】

(2017年5月～2019年4月)

(単位：億円)



本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長（登金）第 243 号

大阪本社 〒 541-0043 大阪市中央区高麗橋 2 丁目 4 番 2 号

東京本社 〒 103-0022 東京都中央区日本橋室町 1 丁目 2 番 3 号

加入協会 日本証券業協会